

働きやすい環境を求めて

2019年度要求書交渉

府職労

災害時にも府民の
安心安全が守れる人員増員を！

府職労は3月13日に、府知事あて府職労2019年度要求書を提出し、3月28日に単組要求交渉を行いました。今年も要求書について議論を重ね、従来からの要求項目の中から重点項目を絞り交渉に臨みました。

府税支部の参加者からは、評価制度における問題点と今なお多くの対象者がいる給与表2級の最高号給滞留問題について発言があり、職場での結核欠となることや、職員モチベーションの低下が著しい問題について触れられました。保健所支部の参加者からは、「災害時において今の府の体制では府民の安心・安全を守れないし、スタッフの労働条件についても整備が必要」と、また土建支部の参加者からは、災害時の通勤ルート迂回に伴う実費負担の解消を求める発言がありました。また、健康福祉支部からは、夜勤や交代制勤務職場において、実質一人でも多くの入所者を見なければならぬ状態、いわゆる「ワンオペ」状態になっている職場があり、一つ事を守る自治体労働者として、職務をしっかりと果たすことができる、働きやすい環境を求め、引き続き職場からの声を背景に運動を進める決意を新たにしました。

病院労

早急に賃金一時金引き上げを！
スタッフの増員、非常勤職員の待遇改善を行え！

府職労・病院労組は3月13日に、病院機構理事長あてに要求書を提出し、職場の実態も踏まえて、折衝・交渉を行いました。国や大阪府・他府県でも当たり前に行われている団体交渉を前に緊急に要請行動も行い、要請書を出し、その実現を強く求めました。20日の団体交渉では、長時間過密労働の解消、給料・ボーナスの増員、給料・ボーナスの引上げについて冒頭追及しました。そのあと各病院の参加者からの発言で、当高に職場実態を訴えました。急性期C支部からは、非常勤職員の待遇改善・無期転換ルールの全員適用を求め、国際がんセンター支部の参加者からは、少数職種の見直し・昇格制度の改善などの問題について追及し、その実現を求めました。

病院機構から示された最終回答は、これらの要求にいくつか答えられない不誠実なものですが、交渉の最後に病院機構の後継事務局長より「日頃の職員のみなさんががんばりに報いる回答ができて、心苦しい」と、給料・一時金引上げについては「引き続き協議を促したい」との考え方が述べられ、継続協議となりました。



知事部局の団体交渉



病院労組の団体交渉

限りある資源を有効に

みなさんは3Rという言葉を知っていますか？心掛ける順番は、説明するところからReduce（ごみを減らす）、Reuse（繰り返し使う）、Recycle（再利用する）、というのが3Rです。

ごみによる健康、生活、環境への被害の影響を少なくし、資源を長く使い続けることができる社会をめざす循環型社会

推進室が咲洲庁舎の2階にあります。

その中にある資源循環課では、大阪府下の循環型社会の形成をめざし、3Rの促進はもちろですが、一般廃棄物処理施設にかかる市町村への指導監督や広域廃棄物処理場の推進など、大阪府下の環境保全を25人の職員が担っています。リサイクルグループでは、リサイクル法にもつき、古くなった冷蔵庫やエアコンなどの回収・再生にかかわり、サイクリングシステムの管理や考案にも取り組んでいます。ここで働く人たちは、年目の尾山さん取材をしました。



リカこたいちの職場訪問

こんなところにも組合員⑨

循環型社会推進室 資源循環課 リサイクルグループ(取材時)
エネルギー政策課 環境戦略グループ(現所属) 尾山 恵美さん

きつかけは「風の谷のナウシカ」

尾山さんは東京都出身で、幼いころに親の映画がきっかけで、環境汚染や自然保護に関心を持ち、環境問題に向き合う道を選びました。大阪で6年間、環境工学を学び、東京の企業に就職しましたが、学んだことを公務で活かしたいと思い、環境職として大阪府庁への転職を決意しました。

尾山さんは2児の母となり、育児短時間勤務を利用しながら働いています。子育てのための制度があっても、業務量が減らず人も増えない現状が、中々ありません。

仕事も育児も頼られる存在に

尾山さんは2児の母となり、育児短時間勤務を利用しながら働いています。子育てのための制度があっても、業務量が減らず人も増えない現状が、中々ありません。



尾山さんとのインタビューの様子

医療の現場から 府民のいのちと健康を守る府立病院に ⑫

大阪急性期・総合医療センター 藤枝 道子

聴覚障がい者の命を守る 手話通訳者の雇用や身分を

意思疎通に必要な手話通訳

大阪急性期・総合医療センターで設置の手話通訳をしています。病院内の専任の手話通訳です。で、受付、受診相談、診察、さまざまな検査、入院退院のオリエンテーション、リハビリ、手術室にも同行します。また、患者さんご家族が聞けない方も、患者さんご家族に院内の必要とされる場所にて通訳を行います。

大阪における病院の手話通訳の設置の経過を簡単に紹介します。

1980年代、大阪聴覚障害者協会は医療ボランティアとして、大阪府立病院に手話通訳者を派遣がスタート。そして2006

大きな課題でもありません。手話通訳者がコミュニケーション支援にあたることにより、聴覚障がいをもつ患者さんが自身の症状を十分に訴え、納得のいく治療を受け、主体的に病気を向き合っていくことができるようになります。しかし、その手話通訳者の身分は、年度ごとに契約を更新される非正規職員です。最近の採用者は初めから3年以上の期限付き雇用となっており、ご不安定な雇用や身分、聴覚障がい者の命を守るという言葉が、若い人たちが、このやりがいのある仕事を一生の仕事として目指していただける体制が全ての病院でつくられること、は、長年の悲願でもあります。

5・3おおさか総がかり集会 3000万人署名を大きく成功させ 市民と野党の共闘で9条改憲発議STOP!



扇町公園での集会に参加した府職労の皆さん

5月3日、汗ばむ陽気の中、扇町公園で「輝け憲法！平和といのちのちを15・3おおさか総がかり集会」が開催され、府職労からは約70人、全体で2万人が参加しました。

集会では、二宮厚史神戸大学名誉教授がゲストスピーカーで「安倍首相の改憲の情勢やベネミクスが破たんしている」と述べ、「参議院選挙1人区で野党共闘が成功すれば国会で3分の2以上を占める改憲派の野望は打ち砕ける」と強い口調で話していました。その後、日本共産党、立憲民主党、社民党の各代表から連帯の挨拶があった後、続いて、元大阪弁護士会長の石田法さんら各分野の4氏から元氣の出るスピーチがありました。

また、集会宣言では、「3000万人署名の推進」「9条改憲発議を許さない」「軍事費の増大ではなく、社会保障の充実」「平和といのちの人権が輝く未来のために」など参加者全員で確認しました。

その後、「9条改憲NO!」のポスターを集会参加者全体で掲げてアピールを行い、3コースにわかれてパレードを行いました。



祝 第90回 大阪メーデー開催!!

5月1日、働くものの団結で生活と権利を守るため、暴走政治ストップ、平和と民主主義、中立の日本を目指すことをメインスローガンに、第90回大阪メーデーが大阪府内各地で開催されました。当日は雨天にもかかわらず、扇町公園で開催された大阪中央メーデーはじめ地域メーデーも含めて約7000人が集まり、府職労からは約1000人が参加しました。

ワークショップでメーデーについてみんなで学ぶ

府職労は今回のメーデーを取り組むにあたり、青年から意見のあったメーデーについての学習をし、知識を深めてから、午後から開催のメーデー・パレードに参加することを決めました。

午前中にプレ・イベントの開催もあり、企画にあたっては参加者が家族連れにと、保育もできるような企業に、画しました。



デコレーション部門2位入賞！学んだあとは元気にパレード！

ワークショップで学んだあとは、昼食をみんなで食べるながら学習したことを振り返り、その足でメーデー会場へ。

前日にみんながワイワイと楽しく作り上げたアンパンマンや「バイキンマン」がパレードを行いました。

